

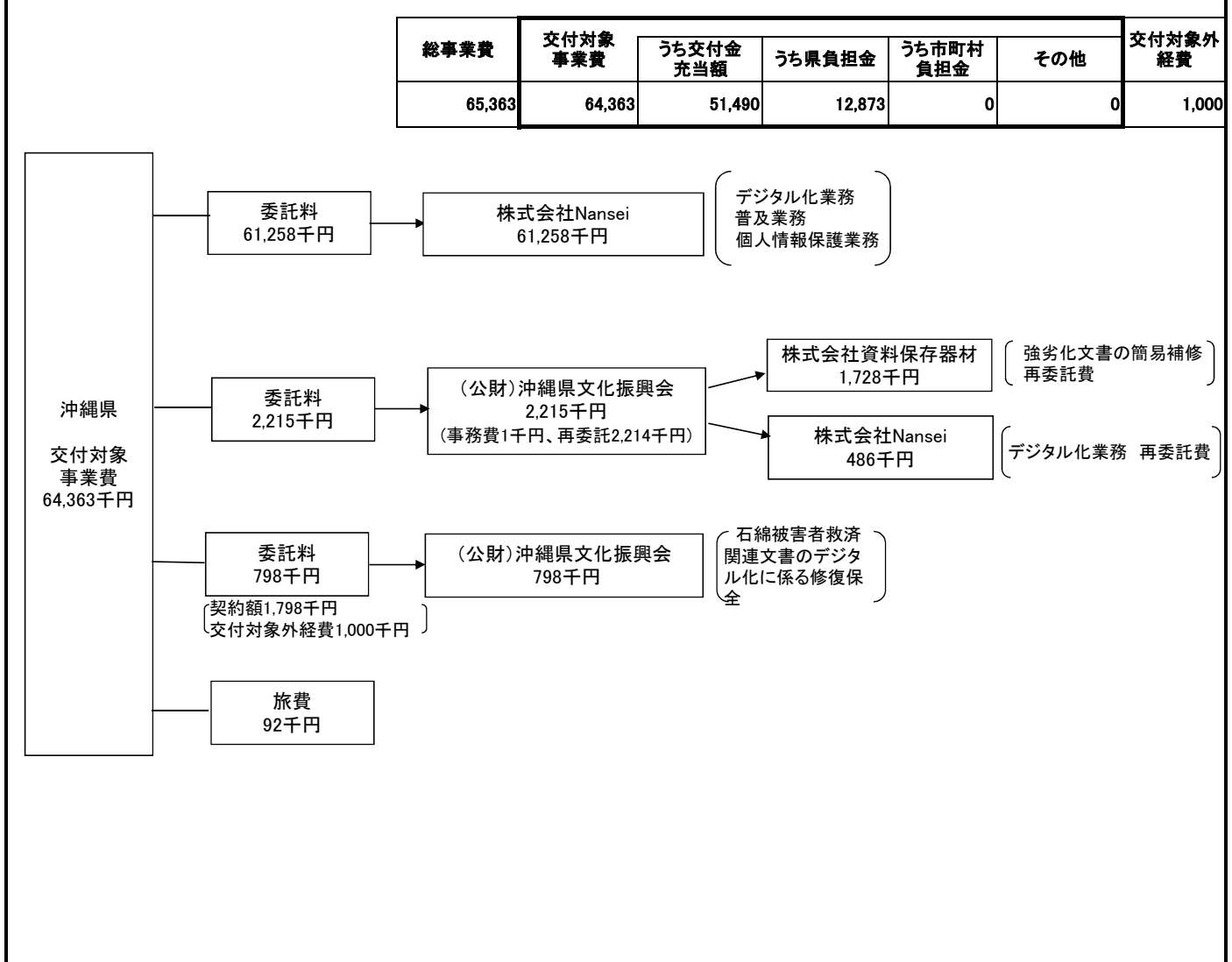
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4	琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	総務部 総務私学課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	離島住民を含め多くの県民が琉球政府文書を利用できるようにするため、紙資料をデジタル化し、インターネットで閲覧できるようにする。劣化の激しい資料については、デジタル化の前に修復を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	—	—	16,954	—	66,794
		(b) 予算現額	—	—	16,954	—	66,795
		(c) 増減額 (b-a)	—	—	0	—	1
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		—	—	16,954	—	66,795
	B. 執行済額		—	—	14,398	—	64,363
	うち交付金充当額		—	—	11,518	—	51,490
	C. 次年度繰越額		—	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)		—	—	84.9%	—	96.4%
予算の状況の説明		概ね計画通りの予算執行となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	デジタルデータの作成	目標	—	384,000頁	11,520簿冊		
		実績	—	384,010頁	23,356簿冊		
	個人情報の保護措置	目標	—	—	2,300簿冊		
		実績	—	—	2,326簿冊		
	劣化の激しい資料の修復	目標	—	—	14簿冊		
		実績	—	—	3簿冊		
	達成状況説明	劣化の激しい資料の修復については、委託先の選定と仕様の策定に時間を要し、契約手続きが年度後半となったことによる実績の減。デジタルデータの作成指標は、撮影頁数から撮影簿冊数へ変更した。個人情報の保護措置については、個人情報確認された簿冊のうち、保護措置を行った簿冊数とした。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(25年度)	24年度	25年度	26年度
離島住民を含む県民の利用に向けた琉球政府文書のデジタル化の推進 H25 1,280簿冊→ H26 12,800簿冊 (11,520簿冊増)(累計)		目標	—	—	1,280簿冊	11,520簿冊 (累計12,800簿冊)	—
		実績	—	—	2,098簿冊 (1.6%)	23,356簿冊 (累計25,454簿冊) (19.6%)	—
		目標					
		実績					
進捗状況説明		平成33年度までに琉球政府文書13万簿冊をデジタル化するための年度計画(平成27年度以降の年間デジタル化撮影簿冊数17,280簿冊)を達成するために、平成26年度はカメラを増設(3台→7台)して撮影を行い、デジタル化対象簿冊総数に対する平成26年度成果目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球政府文書の保存措置やデジタル化については、文書を保管している沖縄県公文書館の管理運営を委託されている指定管理者(公益財団法人沖縄県文化振興会)との連携が不可欠である。</li> <li>・琉球政府文書の修復については、デジタル撮影作業に耐えられる程度の措置を実施しているが、文書によっては、触れただけでも紙片が崩れるものもあり、修復に時間を要するものもある。</li> <li>・デジタル化資料のホームページでの公開については、公文書館の既存の配信システムでの対応はデータ容量上困難であるため、新たな配信システムを構築する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球政府文書16万簿冊のうち、比較的重要な13万簿冊をデジタル化し、ネットで利用できるようにするため、事業最終年度の平成33年度まで事業計画に沿って効率的に実施する必要がある。</li> <li>・撮影過程で確認された劣化の進んだ資料の紙力強化等の修復措置と、個人情報保護措置については、どの程度の取組が必要か、必要性和コスト(作業量・経費)を勘案し効率的な取組を要する。</li> <li>・デジタル化資料のホームページでの公開については、国立公文書館や関係機関の状況等を参考に検索の利便性と操作性を備え、ランニングコストを抑えた効率的なシステム構築を実施する必要がある。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業の実施においては、事業受託者と沖縄県公文書館指定管理者を交えた定例会を開催し、事業の進捗状況の把握と改善策を検討し着実な事業実施に繋げる。</li> <li>・撮影過程で確認された劣化の進んだ資料の修復措置と、個人情報保護措置については、どの程度の取組が必要か、類似機関の状況を参考に効率的な取組を検討する。</li> <li>・デジタル化資料のホームページでの公開に関しては、利用者にとって検索しやすく、管理者にとって維持管理がしやすく低コストなシステムを構築するため、IT技術者及び公文書館指定管理者などの関係機関とも連携をとって調査・検討する。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、点 検、費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者の選定にあたり入札を実施したが、入札不調となったため、最低額を提示した事業者と随意契約を締結した。 ○平成33年度までに目標を達成するための必要な事業規模を算出し、事業を実施した。 ○デジタル化に必要な経費を計上し、事業目的に即した実績となっていることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	212	しまくとぅば普及継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施（予定）年度	平成 26 ~ 28 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	沖縄文化の基層である「しまくとぅば」を次世代へ普及・継承するため、全県的かつ横断的な普及活動や県民運動等を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	-	-	-	26,462
		(b) 予算現額	-	-	-	-	26,462
		(c) 増減額 (b-a)	-	-	-	-	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		-	-	-	-	26,462
	B. 執行済額		-	-	-	-	25,856
	うち交付金充当額		-	-	-	-	20,684
	C. 次年度繰越額		-	-	-	-	0
	執行率 (%) (B/A)		-	-	-	-	97.7%
予算の状況の説明		・H26年度から行われた事業である。 ・執行率は97.7%となっており、当初予定していた報償費の未執行により不用額(606千円)が発生した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	「しまくとぅば」読本を作成し、県内の全小5、中2の児童生徒に配布する数	目標	-	-	小5 18,000部 中2 18,000部		
		実績	-	-	小5 18,000部 中2 18,000部		
	しまくとぅば県民大会参加者数	目標	-	-	600人		
		実績	-	-	610人		
達成状況説明	・「しまくとぅば」読本を作成し、県内の小学校5年生、中学校2年生に、各18,000部を配布した。 ・しまくとぅば県民大会を開催し610人の参加があった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
	「しまくとぅば」読本を作成し、県内の全小5、中2の児童生徒に配布する数	目標	-	-	-	小5 18,000部 中2 18,000部	小5 18,000部 中2 18,000部
		実績	-	-	-	小5 18,000部 中2 18,000部	-
	しまくとぅば県民大会参加者数	目標	-	-	-	600人	600人
		実績	-	-	-	610人	-
	進捗状況説明	・「しまくとぅば」読本を作成し、県内の小学校5年生、中学校2年生に、各18,000部を配布し、目標を達成した。 ・しまくとぅば県民大会を開催し610人の参加があり、目標を達成した。					

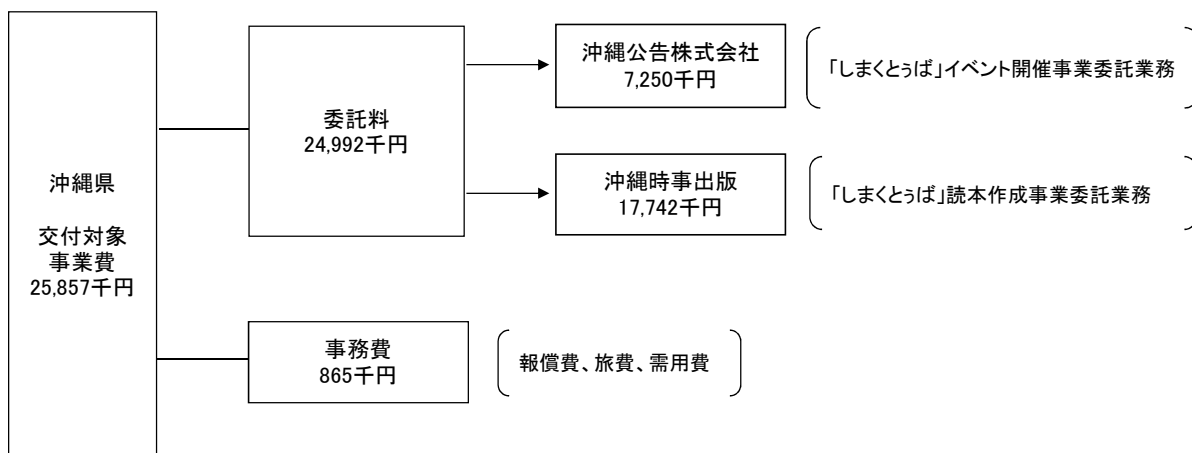
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しまくとぅば」読本を作成し、県内の全小5、中2の児童生徒に配布する各18,000部を配布したため達成と評価する。</li> <li>・しまくとぅば県民大会参加者数 600人を達成したことから、達成と評価する。</li> <li>・各地域で、その地域の「しまくとぅば」の普及推進を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の読本は、小5、中2の児童生徒の在籍数に応じて冊数を設定する必要がある。</li> <li>・「しまくとぅば」のさらなる普及推進のため、話者育成講座を行うなど、各地域で「しまくとぅば」を普及させる人材を育成する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・H25年度策定された、「しまくとぅば普及推進計画(平成25年度～平成34年度)」に基づき、H25年度に58%であった、「しまくとぅば」を話す割合(あいさつ含む)を、H28年度には61%、H31年度には70%、H34年には88%とするため、引き続き「しまくとぅば」の普及推進を図る。  
 ・H27年度は、「しまくとぅば」普及推進計画(前期)の最終年度となることから、これまでの取組に加えて、話者育成講座等を行い、各地域での人材育成に取り組む。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
25,857	25,857	20,684	5,173	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識などを勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	213 沖縄遺産のブランド開発・発信事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
担当部課名	文化観光スポーツ部 博物館・美術館	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖繩の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	本県独特の自然・歴史・文化を沖縄遺産と位置づけ、沖縄遺産の目玉となる旧石器時代の人骨を発掘することにより、遺跡を利用した新たな観光資源を創出する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位：千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,099	—	25,513	—	22,962
		(b) 予算現額	16,099	—	25,513	—	22,962
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		16,099	—	25,513	—	22,962
	B. 執行済額		14,632	—	20,266	—	16,272
	うち交付金充当額		11,705	—	16,213	—	13,017
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)		90.9%	—	79.4%	—	70.9%
予算の状況の説明		不用額6,690千円が発生しているが、主なものは委託料の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 なお、不用額については、予算積算時に過大な積算にならないよう参考見積りを徴する等適正な予算要求を行っているところではありますが、入札時に予想を大幅に下回る金額での落札がおきる現状も踏まえ、実績を反映した適正な予算積算に努めてまいります。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	旧石器人類発掘調査の実施	目標	発掘の実施	発掘の実施	発掘の実施		
		実績	発掘の実施済	発掘の実施済	発掘の実施済		
	情報発信の実施	目標	—	情報発信(展示会等)の実施	情報発信(展示会等)の実施		
		実績	—	情報発信(展示会等)の実施済	情報発信(展示会等)の実施済		
達成状況説明	南城市サキタリ洞遺跡において発掘調査を実施し、出土品についての調査研究を実施した。さらに、調査成果を県立博物館・美術館にて開催された2回の講座、および発掘期間中に実施した現地見学会において発信した。なお、25年度に現地での発掘を終える計画であったが、想定よりも多くの成果があり、今年度も引き続き行うこととなった。26年度の調査は順調である。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(29年度)
	旧石器人骨化石の発見	目標	—	人骨化石の発見	人骨化石の発見	1件	4件
		実績	—	人骨化石の発見済	人骨化石の発見済	1件	—
	旧石器人類関係イベント(記者発表、現地見学会、講演会等)への参加者数	目標	—	—	約3,000名	1,000名	—
		実績	—	—	3,026名	1,046名	—
	進捗状況説明	活動目標の実施により、9千年前以前のものと考えられる1体分の人骨を検出することができ、成果目標を達成することができた。この人骨は埋葬された可能性があり、埋葬人骨だとすると、日本最古級のものとなる。また、調査成果を県立博物館・美術館にて開催された2回の講座(参加者177名)、および9千年前以前の人骨検出に伴って、発掘期間中に実施した現地見学会(参加者869名)において発信した。H26年度実施イベントへの参加者総数は1,046名で目標を達成している。(なお、平成26年度の目標値1,000人については、平成25年度実績3,026人のうち平成26年度も実施する現地見学会と学芸員講座等の実績626人を元に設定)					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・昨年度に引き続き、H26年度の調査研究においても、想定を上回る重要な発見があったため、成果の公表までに必要な調査研究に時間を要すること、またその内容をより拡充して実施すべきことが、引き続き推進上の留意点となっている。</p> <p>・特にH26年度に発見された9千年前以前のものと考えられる1体分の人骨は、きわめて保存の良いもので、埋葬された可能性がある。仮に埋葬人骨であれば、国内最古級のものとなる。一方、人骨はきわめて脆く、現在慎重に復元作業を進めている。復元には相当の時間を要する。</p>	<p>・調査研究成果の迅速な公表が課題としてあげられる。一方、拙速な公表は誤認や不正確な情報発信につながるため、専門的知識にもとづいた慎重かつ正確な情報発信が必要であり、専門スタッフの増員をすることにより、発見から公表までの時間短縮、公表内容の充実を図る必要がある。</p> <p>・調査成果について、博物館内の展示や新聞報道だけでなく、インターネットや各種メディアを通じた組織的な情報発信を実施することによって、より効果的な調査成果の普及をはかっていく必要がある。また、調査成果を普及するパンフレットや刊行物を充実させていく必要がある。</p>

今後の取り組み方針
<p>・より充実した調査を実施し、正確な情報発信を行うため、発掘調査を本年度まで延長して実施する。</p> <p>・調査成果をインターネット上でも普及するため、平成26年度において情報発信用のコンテンツの作成を行い、27年度よりそれを活用して、インターネット上で情報を公開する予定である。</p> <p>・本年度は調査成果に関する県外での移動展を予定しており、移動展の内容および、これに関連する刊行物等を充実させることにより、さらなる情報発信をはかる。</p>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
16,373	16,272	13,017	3,255	0	0	101

沖縄県 交付対象 事業費 16,272千円	委託料 6,156千円	(株)南都 4,225千円	〔 沖縄遺産ブランド開発・発信事業に伴う発掘調査支援業務委託 〕
		(株)バスコ 700千円	〔 沖縄遺産ブランド開発・発信事業に伴う発掘支援業務委託(その2)3Dレーザー測量 〕
		(株)パレオ・ラボ 432千円	〔 沖縄遺産ブランド開発・発信事業に伴う年代測定業務委託 〕
		WISE(有)ワイズ 799千円	〔 沖縄遺産ブランド開発・発信事業に伴う情報発信用コンテンツ制作業務委託 〕
	備品購入費 5,465千円	沖縄コンピュータ販売(株) 3,866千円	〔 3Dレーザースキャナー及びオペレーション用パソコン 〕
		(株)パレオサイエンス 1,599千円	〔 ネアンデルタール人非交連骨格模型 〕
	事務費 4,651千円	〔 賃金、旅費、需用費、役員費、使用料 〕	
	〔 賃金年休取得分(交付対象外経費) 101千円 〕		

資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で一般競争等入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、本年度は入札残が発生したため執行残が発生したが、事業主目から概ね妥当な規模である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



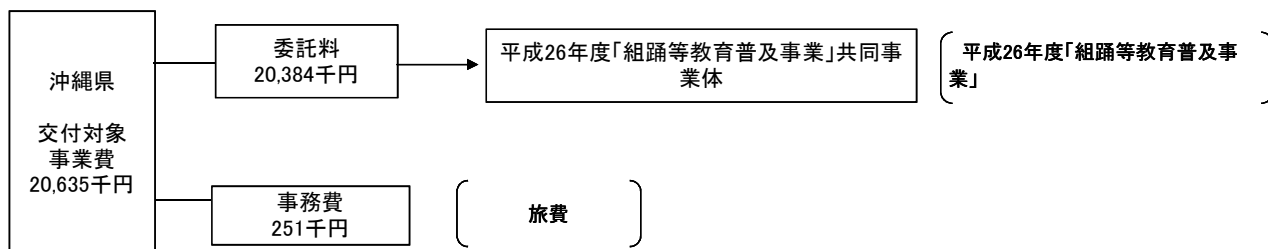
## 平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	260 組踊等教育普及事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		3-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施 (予定)年度	平成 26 ~ 30 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		沖縄の文化の源流を確認出来る 環境作り Ⅲ-3-(2)	
事業内容	組踊とこれに関連する琉球舞踊、琉球古典音楽等の無形文化財について、教育普及を推進し次世代への保存継承を図るため、県内の児童生徒に鑑賞させる。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	—	—	—	—	22,525
		(b) 予算現額	—	—	—	—	22,525
		(c) 増減額 (b-a)	—	—	—	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		—	—	—	—	22,525
	B. 執行済額		—	—	—	—	20,635
	うち交付金充当額		—	—	—	—	16,508
	C. 次年度繰越額		—	—	—	—	0
	執行率 (%) (B/A)		—	—	—	—	91.6%
予算の状況の説明		・予算額は組踊等沖縄伝統芸能公演に係る委託料である。 ・委託業務において、旅費や会場使用料の不用額が発生したため、執行率が91.6%にとどまった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	児童生徒対象の組踊等教育普及公演実施 7回	目標	—	—	7回		
		実績	—	—	7回		
		目標					
		実績					
達成状況説明	・組踊等沖縄伝統芸能を鑑賞する機会の少ない児童生徒対象に7回の公演を実施することを目標とした。 ・児童生徒の少ない離島地域で7回の公演を実施し目標を達成した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (30年度)
	組踊等に関する理解・関心を深めた児童生徒数	目標	—	—	—	2,450人	11,550人
		実績	—	—	—	1,590人	—
		目標					
		実績					
	進捗状況説明	・当初開催校の児童生徒約3,500人の70%(2,450人)が、組踊等沖縄伝統芸能について理解・関心を深めることを目標としたが、7公演で1,776人の児童生徒の鑑賞にとどまった。 ・アンケート調査の結果から、組踊等沖縄伝統芸能について理解・関心を深めた生徒は、鑑賞児童生徒数(1,776人)の89.5%(1,590人)で、比率としては当初の目標である70%を上回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒数の少ない離島や小規模校からの希望が多く、7公演で1,776人の児童生徒の鑑賞にとどまった。</li> <li>本事業の目的を達成する上で、鑑賞機会の少ない離島地域を中心に事業を進め、平成26年度は鑑賞を希望した全ての学校の児童生徒に鑑賞機会を提供できた。</li> <li>ワークショップの内容を含む体験型の学習を行い、児童生徒の組踊等沖縄伝統芸能についての理解・関心を深めさせられた。</li> <li>ワークショップを含む体験型の学習後の感想で実演家を志望する児童生徒が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望校のみを対象とするのではなく、児童生徒数の多い地域や大規模校も含めより多くの児童生徒に鑑賞機会を保証出来るよう地域の教育委員会と連携して進める。</li> <li>今後とも、鑑賞を希望する学校の児童生徒に鑑賞機会を提供する必要がある。</li> <li>ワークショップは、直接、郷土の芸能文化に触れる機会なので、児童生徒の理解・関心を高める内容や方法等の研究が必要である。</li> <li>次代の実演家を担う児童生徒の要望に応えるためのワークショップの実施等、体験型学習の内容の研究も必要である。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの児童生徒に鑑賞機会を提供するため、希望する学校だけでなく、近隣の小・中・高、特別支援学校に呼びかけて、鑑賞人数の増加をはかる。</li> <li>ワークショップの内容を、より組踊等沖縄伝統への理解・関心を深められるよう検討するとともに、公演解説にあたって体験型の手法を取り入れる。</li> <li>ワークショップや公演の解説に、次代を担う実演家志望の児童生徒の希望にも応えられる内容を盛り込む等の工夫をする。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
20,635	20,635	16,508	4,127	0	0	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識等を助案した上で選定し、適切な事業が実施された。 ○委託事業者からの実績報告及び、支出の費目、用途を確認し、その内容から予算が適正に執行されていた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	261	琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	琉球史の教育への利活用や研究の進展等を図るため、琉球王国の外交文書「歴代宝案」や交流史等に関する資料を編集・刊行するとともに、保存・活用のためのデジタル化、テキスト化を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,675	—	38,430	—	39,992
		(b) 予算現額	39,675	—	38,430	—	39,992
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		39,675	—	38,430	—	39,992
	B. 執行済額		38,773	—	37,172	—	38,391
	うち交付金充当額		30,979	—	29,738	—	30,713
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)		97.7%	—	96.7%	—	96.0%
予算の状況の説明		印刷製本費の入札残、史料調査における調査人員の減により執行残が生じたが、当初計画通り事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・歴代宝案編集委員会の開催 年1回 ・歴代宝案編集委員会作業部会の開催 年2回	目標	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回		
		実績	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回		
	・歴代宝案原稿作成 2,200枚 (残9,700枚のうち23%)	目標	1,600枚	2,264枚	2,200枚		
		実績	1,600枚	2,264枚	2,464枚		
達成状況説明	・歴代宝案編集委員会・作業部会(計3回)を開催し、『歴代宝案』の編集作業を確認し、課題や検討箇所の共有化を計ることができた。また『歴代宝案』に関する交流関係史料に関する情報を収集することができた。 ・原稿作成者との調整を実施し、校訂原稿第15冊(264枚)、訳注原稿第6冊(600枚)、第8冊(400枚)、第10冊(600枚)、第15冊(600枚)、計2,464枚を作成し、目標を達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(〇〇年度)
	○琉球王国外交文書等の編集刊行 5冊(配布900件)	目標	—	5冊(配布900件)	5冊(配布900件)	5冊(配布900件)	—
		実績	—	5冊(配布176件)	5冊(配布908件)	5冊(配布935件)	—
	○琉球王国交流史料等のデジタル化 800枚/頁	目標	—	800枚	800枚	800枚	—
		実績	—	794枚	808枚	945枚	—
	進捗状況説明	・琉球王国外交関係史料として、『歴代宝案』訳注本第12冊、『歴代宝案』訳注本第12冊語注一覧表、『中琉歴史関係檔案』嘉慶朝(9)道光朝(1)(2)の計5冊を刊行し、目標を達成した。 ・刊行物の配布対象機関件数は900件を目標とし、県内中学校・高等学校・大学・市町村図書館および県外・国外の大学・研究機関、研究者など935件の配布を行い、目標を達成した。 ・デジタル化は800枚を予定していたが、新規にデジタル化が可能な史料を確認でき、945枚の成果を得ることができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	留意点 ・歴代宝案、ベッテルハイム日記翻訳等は原稿作成者との連携が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴代宝案編集作業および諸外国との外交文書等(ベッテルハイム日記)の編集作業を進めていく上で、今後も校訂原稿・訳注原稿及び翻訳原稿作成者・監修者と、より密接な連携をとる必要がある。</li> <li>・国外調査については、当面台湾における資料調査を継続するとともに、中国の予備調査を実施し、今後の中国調査につなげていく必要がある。</li> <li>・編集作業をスムーズに行うためにも専門知識を持った人材は重要であるため、人材の安定的な確保の必要がある。</li> </ul>
	課題 ①中国調査を予定していたが近年の日中情勢に鑑みて台湾調査を行った。中国調査については中国側研究者との連携を図り、協力体制を作るよう努めるとともに、予備的調査の実施を考える必要がある。 ②歴代宝案の編集刊行には専門的な知識が必要であり、人材の安定的な確保が求められる。	

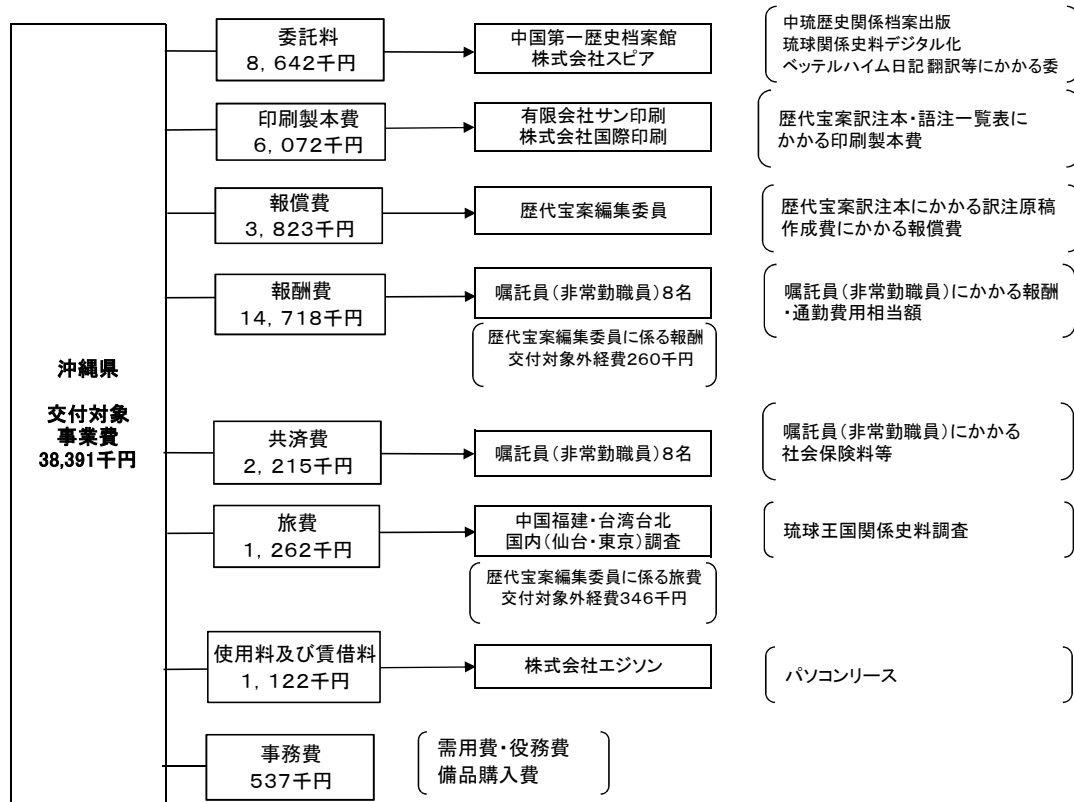
**今後の取り組み方針**

原稿作成者との連携強化のため、進捗状況に関する情報の強化をはかる。具体的には

- ①歴代宝案原稿作成者との調整会議の実施。
- ②ベッテルハイム日記の翻訳については、専門分野の研究者を通じて翻訳者の確保に努めるとともに、翻訳者がネット上で翻訳データを共有できるように設定し、随時翻訳者調整会議を実施する。
- ③国内・国外資料情報・資料調査について、歴代宝案編集委員や調査員とより積極的な連携を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
38,997	38,391	30,713	7,678	0	0	606



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託業者は業務の特殊性・専門性、実績等を勘案し選定しており、妥当であったと考えている。</li> <li>○費目・用途については、事業目的に即しており、額についても支出等に関する書類により確認し、適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	208	文化発信交流拠点整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ウ		
担当部課名	文化観光スポーツ部	文化振興課	事業実施 (予定)年度	平成 26 ~ 28 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	文化活動を支える基盤の形成  Ⅲ-3-(2)	
事業内容	沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、文化・芸能の受発信機能、新たな芸能の創造機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点の整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	-	-	-	-	12,067
		(b) 予算現額	-	-	-	-	12,067
		(c) 増減額 (b-a)	-	-	-	-	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		-	-	-	-	12,067
	B. 執行済額		-	-	-	-	7,848
	うち交付金充当額		-	-	-	-	6,278
	C. 次年度繰越額		-	-	-	-	0
	執行率 (%) (B/A)		-	-	-	-	65.0%
予算の状況の説明		平成25年度で施設整備場所の絞り込みを行い、それを踏まえ平成26年度で整備場所を決定する予定としていたが、当該用地が都市計画決定を受けた都市緑地であり、都市計画決定変更の手続きに時間を要すること、また浦添市との調整に時間を要したため、施設整備場所を決定するまでに至らなかったことから、当初計画していた業務の一部を実施することが出来なかったため委託料を減額したことにより不用(4,219千円)が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	事業計画・実施運営モデルの作成	目標	-	-	事業計画・実施運営モデルの作成		
		実績	-	-	事業計画・実施運営モデルの一部作成		
		目標					
実績							
達成状況説明	平成25年度で施設整備場所の絞り込みを行い、それを踏まえ平成26年度で整備場所を決定する予定としていたが、当該用地が都市計画決定を受けた都市緑地であり、都市計画決定変更の手続きに時間を要すること、また浦添市との調整に時間を要したため、施設整備場所を決定するまでに至らなかったことから、一部、事業計画及び実施運営モデルの具体的な検討を実施することが出来なかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (〇〇年度)
	事業計画・実施運営モデルの作成	目標	-	-	-	事業計画・実施運営モデルの作成	-
		実績	-	-	-	事業計画・実施運営モデルの一部作成	-
		目標					
		実績					
進捗状況説明	平成25年度で施設整備場所の絞り込みを行い、それを踏まえ平成26年度で整備場所を決定する予定としていたが、当該用地が都市計画決定を受けた都市緑地であり、都市計画決定変更の手続きに時間を要すること、また浦添市との調整に時間を要したため、施設整備場所を決定するまでに至らなかったことから、一部、事業計画及び実施運営モデルの具体的な検討を実施することが出来なかったことから、未達成となっている。						

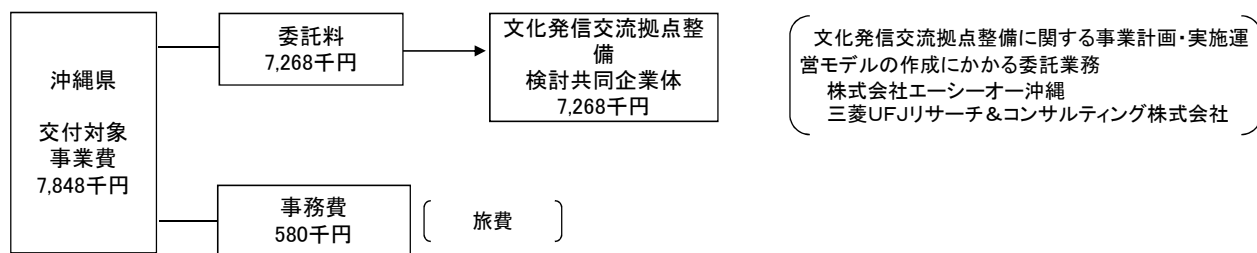
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画で施設整備場所として絞り込みを行った用地が、都市計画決定を受けた都市緑地であることから、代替緑地の確保及び当該都市計画決定の変更(廃止)に時間を要する。</li> <li>当該都市緑地の整備の事業主体は浦添市であることから、都市計画決定の変更(廃止)は浦添市が実施することになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画変更手続きの実施主体は浦添市であるものの、変更手続きがスムーズに行えるよう、浦添市と一体となり変更手続きに取り組む。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・施設整備場所の決定後にしか関係機関との具体的な意見交換や調整を進めることが出来ないため、これまで以上に浦添市との連携を密に図り、一体的に取り組むを進める必要がある。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
7,848	7,848	6,278	1,570	0	0	0



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本事業は平成25年度に策定した拠点整備基本計画の内容に基づき検討を進めていく必要があり、これまでの関係者との調整経緯や基本計画を策定時における課題等を踏まえ継続的に事業を推進させる必要があることから、随意契約により前年度と同一業者との契約を締結した。</li> <li>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、事業内容に一部変更が生じたため変更契約を実施した上で、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

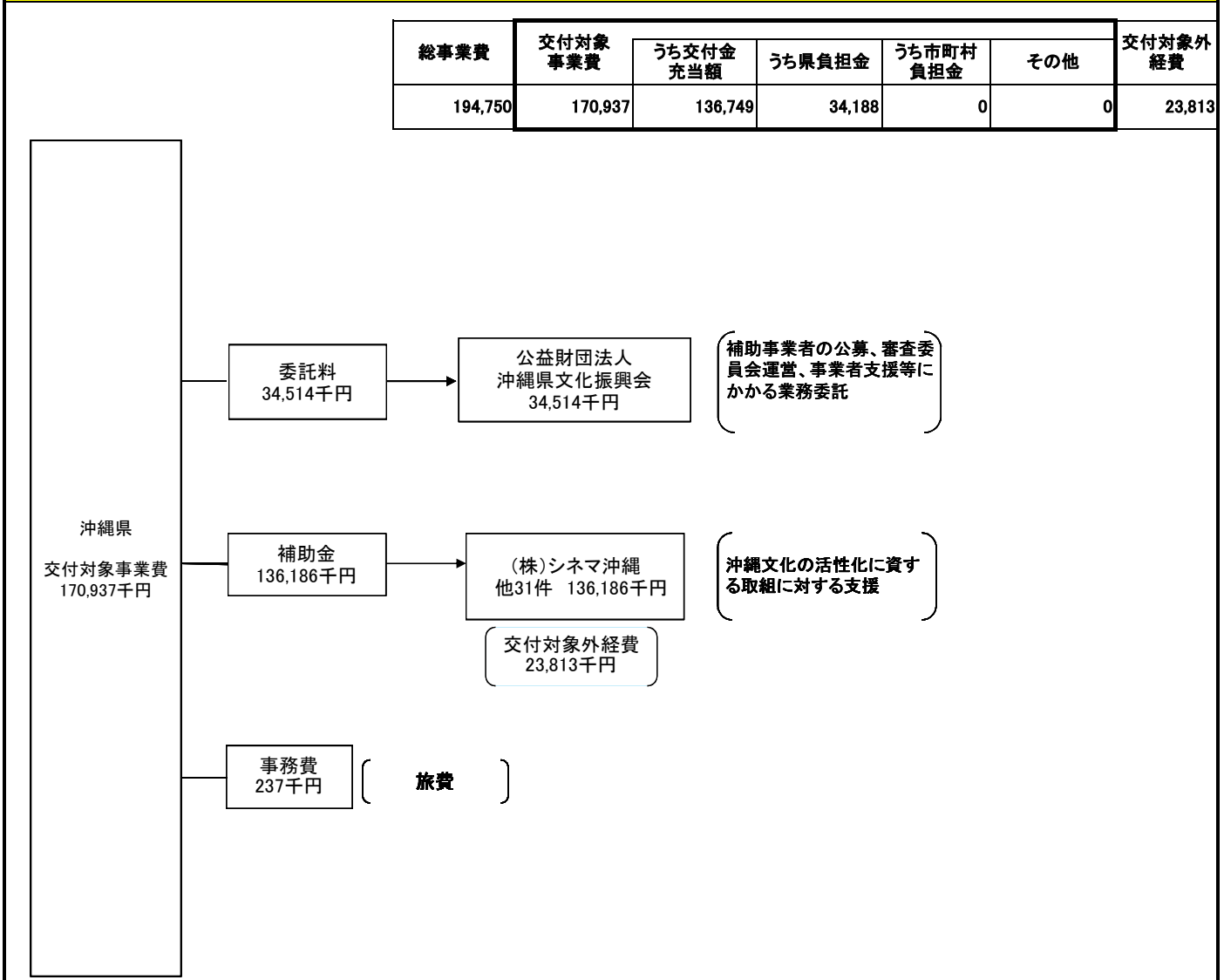
<b>事業番号・事業名</b>	209 沖縄文化活性化・創造発信支援事業		<b>沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所</b>	第3章-1-(4)-ア、ウ-5-(5)-ア、ウ 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり文化活動を支える基盤の形成リーディング産業を担う人材の育成新産業の創出や産業のグローバル化を担う人材の育成			
<b>担当部課名</b>	文化観光スポーツ部 文化振興課	<b>事業実施(予定)年度</b>	平成24年～平成28年	<b>沖縄振興基本方針該当箇所</b>	III-3-(2)		
<b>事業内容</b>	本県の多様で豊かな地域の伝統芸能・文化の保存継承、芸術文化の創造発信を行うため、文化資源を活用した芸術文化の創造発信に取り組み団体等に支援する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額【単位:千円】</b>			24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	226,811	-	233,058	-	188,458
		(b) 予算現額	226,811	-	233,058	-	182,451
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	0	-	0
		(d) 前年度繰越額	0	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	226,811	-	233,058	-	182,451
	B. 執行済額		76,426	-	188,357	-	170,937
	うち交付金充当額		61,140	-	150,685	-	136,749
	C. 次年度繰越額		0	-	0	-	0
	執行率 (%) (B/A)		33.7%	-	80.8%	-	93.7%
予算の状況の説明		・予算額は旅費、委託料、補助金経費を計上。 ・執行率は93.7%であり、主に補助金(不用10,850)の事業執行残による不用額(11,515千円)が発生したものである。不用の理由は外部有識者による事業選定結果による交付決定残と採択事業者の執行残によるものである。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・文化資源を活用した芸術文化の創造発信に取り組み団体等に対する支援	目標	30件	28件	30件		
		実績	21件	36件	32件		
	・芸術専門職員による事業全般の検証及び支援団体等への提言	目標	-	-	事業全般の検証及び支援団体等への提言を行った。		
実績		-	-	"			
達成状況説明	4回の公募を行い、総計88件の応募があり、外部有識者によるプレゼン審査によって、計32件が採択された。事業者への企画提案段階から審査後まで事業計画書の作成や事業手法、考え方について指導、助言を行うことで、目標件数を超えるに至った。※採択結果について沖縄県文化振興会Hpに掲載 → <a href="http://okicul-pr.jp/200/240/index.html">http://okicul-pr.jp/200/240/index.html</a>						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H26成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(〇〇年度)
	・支援団体等が実施する沖縄文化を活用した事業による文化芸術の保存継承、創造発信(ワークショップの開催、公演、Hp開設など)。	目標	-	-	-	30件	-
		実績	-	-	-	32件	-
	・継続的に沖縄文化を活用した事業実施を可能とする支援団体等の組織強化。法人化率	目標	-	-	-	80%	-
		実績	-	-	-	57%	-
進捗状況説明	・活動目標において支援件数32件が採択され、事業実施されたことで、文化芸術団体における人材育成、組織強化、新たな文化の創出、普及啓発に繋がったため「達成」と評価。 ・成果目標において法人化率が目標値を下回り57%であることから「未達成」と評価。未達成の理由は支援団体内での意見集約が図られず十分課題、意義が整理されなかったため。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請件数88件の割に採択件数が32件と少ないため、文化関係団体に対し事業の主旨や実施手法など助言、指導を行う必要がある。</li> <li>組織強化に向けた法人設立について、組織内の活発な議論を踏まえ意見の集約を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の実施スキーム(事業説明会、文化振興会における指導助言、外部有識者による審査など)については引き続き継続する。その中で、文化関係団体へ事業についての広報活動を強化し事業に対する理解を得ながら、企画提案にかかる助言指導をこまめに行っていく必要がある。</li> <li>組織強化に向けた法人化設立について、事業進捗状況を把握し、意見集約を促し必要に応じて助言指導を行うことで法人化設立に向けて取り組む必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 引き続き事前説明会を開催し、事業の概要、主旨、留意点等を説明し、事業提案内容の熟度を高め、不採択事業の中で内容がよいものについても、次回の公募に繋がるよう助言、指導を行い支援する。
- 組織強化に向けた法人化設立について、事業進捗状況を把握し、意見集約を促し必要に応じて助言指導を行い法人化設立に向けて取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、他の文化関係機関との連携も視野にいれて県の文化行政施策を実行できる唯一の団体であり、選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者負担については交付要綱で補助率9/10(継続事業8/10)と定めており、妥当と判断している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業を円滑に遂行するために必要な経費であったかを支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	210	沖縄伝統空手道継承・発展事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施 (予定)年度	平成 25 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	文化の発信・交流		
事業内容	沖縄を発祥の地とする沖縄伝統空手道を保存・継承・発展させるため、セミナーの開催や指導者の海外派遣等を実施し、国内外での沖縄伝統空手道の普及・啓発並びに世界中の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・継承者の育成を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	—	—	37,811	—	45,861
		(b) 予算現額	—	—	37,811	—	45,861
		(c) 増減額 (b-a)	—	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	—	—	37,811	—	45,861
	執行率 (%) (B/A)	B. 執行済額	—	—	36,033	—	45,848
		うち交付金充当額	—	—	28,826	—	36,678
		C. 次年度繰越額	—	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)	—	—	95.3%	—	99.9%	
予算の状況の説明	・予算額は国際セミナー、指導者の海外派遣、周知演武会、沖縄伝統空手ブランディング検討委員会の実施に係る委託料と旅費の経費を計上したところである。 ・ほぼ全額執行となっている。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	沖縄伝統空手・古武道国際セミナー(短期)の開催 1回	目標	—	①1回 ②2回	①1回 ②1回		
	沖縄伝統空手・古武道国際セミナー(長期)の開催 1回	実績	—	①1回 ②0回	①2回 ②1回		
	指導者海外派遣 2地域程度	目標	—	3カ国程度	2カ国程度		
		実績	—	2カ国	2カ国		
達成状況説明	・沖縄伝統空手道セミナーについては、短期セミナー(1週間セミナー1回)、長期セミナー(1ヶ月程度1回)の開催を想定した。実績については、短期セミナー(1週間セミナー1回、1日体験セミナー1回)、長期セミナー(1ヶ月程度1回)を開催した。 ・指導者海外派遣については、2カ国へ派遣を行い、空手セミナーを実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (29年度)
	沖縄伝統空手・古武道国際セミナーの参加者数 120名	目標	—	—	120名	120名	220名
		実績	—	—	55名	124名	—
	指導者海外派遣者数 6名程度	目標	—	—	6名	6名	8名
		実績	—	—	8名	8名	—
	進捗状況説明	・沖縄伝統空手道セミナーについて、1週間の短期セミナーについては、8カ国(日本を含む)から58名、1日間の体験セミナーについては、14カ国(日本を含む)から53名、1ヶ月の長期セミナーについては、7カ国(日本を含む)から13名の参加を得て開催し、沖縄伝統空手の普及を図ったことから目標を達成した。 ・沖縄伝統空手指導者を2カ国へ8名(1カ国あたり、最高段の範士2名、若手指導者2名)を派遣し、海外セミナーを開催することにより次代を担う指導者・継承者の育成を図ったことから目標を達成した。					



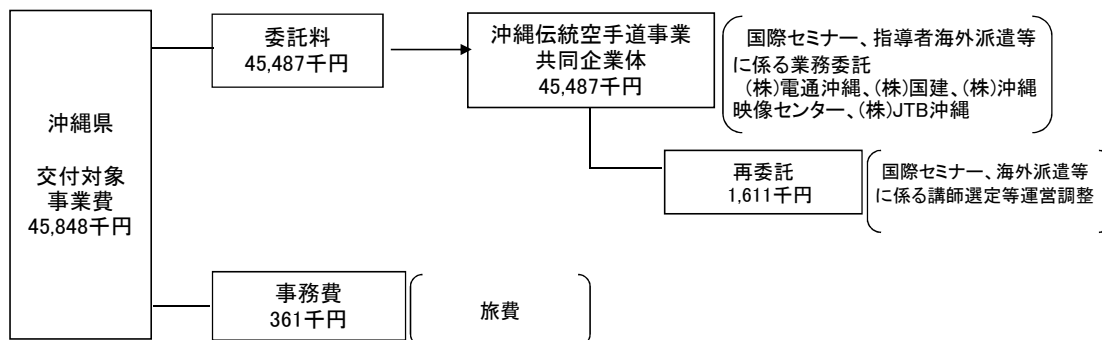
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・国際セミナーについて、早期周知に努めたものの、セミナー1回あたりの参加者数が十分とはいえない状況であり、広く認知されているとはいえない。</p>	<p>・国際セミナーの開催については、引き続き早期周知に努めるとともに、より広く情報発信することが求められる。広報周知の改善を図るとともに、空手界と協力して情報発信ネットワークの構築に努める。</p>

**今後の取り組み方針**

- ・実施計画について早期に決定し、十分な周知期間をとって、国際セミナーを開催する。
- ・広報周知の改善を図るとともに、空手界と協力して情報発信ネットワークの構築に努める。
- ・指導者海外派遣については、引き続き若手指導者を含む空手指導者を派遣し、次代を担う指導者・継承者の育成を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
45,848	45,848	36,678	9,170	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、国際セミナー等事業の実施体制が確立されていないことから、沖縄伝統空手団体との連携や、実績、知識等から効率的・効果的な事業執行を助成し、平成25年度事業者へ継続して随意契約しているが、選定は妥当であったと考える。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	259	みんなの文化財図鑑刊行事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施（予定）年度	平成 26 ～ 30 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造		
事業内容	沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財、県指定文化財、市町村指定文化財を紹介する書籍、6冊を刊行する。刊行後は、県内の学校及び公立図書館を中心に配布するとともに、ハンドブック版については、観光客へのサービスとして世界遺産などの文化財と関連する施設に配布し、目に触れるようにする。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	—	—	—	—	3,126
		(b) 予算現額	—	—	—	—	3,126
		(c) 増減額 (b-a)	—	—	—	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		—	—	—	—	3,126
	B. 執行済額		—	—	—	—	3,022
	うち交付金充当額		—	—	—	—	2,417
	C. 次年度繰越額		—	—	—	—	0
	執行率 (%) (B/A)		—	—	—	—	96.7%
予算の状況の説明		・平成26年度の事業経費の殆どは嘱託職員の報酬と共済費である。嘱託職員の採用については、業務内容から、学芸員資格の所有者を募集したが専門的な資格であるため、早期に人員が集まらずその採用が遅れた。 ・当初見積りより、パソコンリース代の費用を抑えることが出来たため、執行率が下がっている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	文化財普及書6冊(有形文化財編、無形・民俗文化財編、史跡・名勝編、天然記念物編、埋蔵文化財編、ハンドブック編)の編集・刊行計画策定	目標	—	—	刊行計画策定		
		実績	—	—	刊行計画策定		
		目標					
	実績						
達成状況説明	・沖縄県教育委員会が過去に発行した普及書、その他他府県の発行した文化財普及書の分析をもとに、今後発行する普及書についての編集・刊行計画策定のための編集会議を課内で開いた。 ・編集会議は1月以降に各週で行った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（〇〇年度）
	文化財普及書6冊(有形文化財編、無形・民俗文化財編、史跡・名勝編、天然記念物編、埋蔵文化財編、ハンドブック編)刊行のための編集・刊行計画策定	目標	—	—	—	刊行計画策定	—
		実績	—	—	—	刊行計画策定	—
		目標					
		実績					
進捗状況説明	・毎週1回編集会議を開き、編集内容や編集方針について検討し、普及書の参考例を幾つも作成するなど、刊行計画を策定した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定文化財の情報収集については目標値の104件に達することが出来た。ただし、収集した情報については若干の粗密がある。</li> <li>編集・刊行計画の策定は読者ターゲットを絞り、普及書の編集方針を定めることが出来た。</li> <li>文化財普及書の調査達成件数は目標値をこえることが出来た。</li> <li>県内外の普及書の分析により、その内容が多様であることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財情報の収集について、情報が少ない文化財については今後も情報を収集する必要がある。</li> <li>普及書の編集や写真撮影は課内の職員に分担して行うため、業務の進捗状況については、課内で共有する必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度は26年度に収集した、指定文化財の情報と、策定した編集・刊行計画に基づいて写真撮影と原稿執筆を行う。ただし、情報量の少ない文化財については引き続き、情報収集を行っていく。</li> <li>平成27年度は26年度に引き続き、編集会議を各週で行い、各分野の進捗状況等を確認していく。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
3,022	3,022	2,417	605	0	0	0

沖縄県  
交付対象  
事業費  
3,022千円

—

報酬  
2,845千円

〔

報酬・共済費  
(嘱託員2名)

〕

—

事務費  
177千円

〔

パソコンレンタル料、需用費

〕

資金の流 れ、費 目 ・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○嘱託職員は、ハローワークをとおして募集した。 ○今年度は、とくに受益者が負担するような事業を行っていない。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	